



特色ある診療科紹介 総合内科

大学病院の隙間を埋め、診断困難例の原因を解明する
—詳細な病歴聴取と臨床推論に基づく—

総合内科のアプローチ—

前編

7月号(前編)と8月号(後編)にてお届けします

【はじめに】

福島県立医科大学附属病院総合内科では、主に診断困難とされる症例の原因解明を中心とした診療を行っています。現代の医療は専門分化が高度に進んでおりますが、それゆえに各専門診療科の狭間に落ちてしまうような、原因の特定できない症状に悩む患者様も少なくありません。当科の診療は、こうした専門家を取り揃えた大学病院という場でさえも生じる弱点を補い、大学病院全体として隙間のない医療を提供する一翼を担っています。

【診断困難例における「真の原因」とは】

「診断困難例」という言葉を聞くと、何か極めて稀な難病や特殊な珍しい病気ではないかと想像されがちですが、実際の臨床においては必ずしもそうではありません。実態としては、それほど珍しい病気ではないにもかかわらず、一般的な検査で異常があらわれにくい病態であるために、結果として診断困難となっている場合が多いのが特徴です。

患者様にとって原因不明である不思議な症状の背後には、実は別の疾患が隠れていたりすることもあり、当科ではそれらの可能性を一つひとつ丁寧に見極め、チェックしていく役割を担っています。



【診療のポイント】

病歴から導く仮説と、フォーカスされた身体診察

私たちが日々行っている原因解明の手段は、決して特殊な最先端の検査などではありません。診療の核となるのは、詳細な病歴聴取と、そこから得られた情報を元に行われる臨床推論、そしてその推論(仮説)に基づいて目的を持って行われる、フォーカスされた身体診察です。

検査で異常が出にくい病態だからこそ、患者様がこれまで歩んでこられた症状の経過や生活背景を詳しくお聞きする「病歴聴取」が極めて重要な意味を持ちます。じっくりと時間をかけてお話を伺う中で、いくつかの疾患の仮説(臨床推論)を組み立てます。その疑った病気を確かめるために、必要な部位や所見に的を絞った「フォーカスされた身体診察」を詳しく行うことで、原因を解明できることがあります。特別な機器に頼るのではなく、基本となる医療面接と的確な診察の技術こそが、私たちの専門性です。

(次号へ続く)

(文責：総合内科 濱口杉大)

専門看護師紹介 放射線看護専門看護師 看護学部 講師 佐藤良信



放射線医療は日々進歩し、患者さんが受けられる治療の選択肢も広がっています。そのような放射線医療を看護の立場から支えるのが「放射線看護専門看護師」です。放射線看護専門看護師は、日本看護協会が認定する専門看護師の中でも2022年に誕生した最も新しい専門分野です。2026年7月現在、全国で14名、福島県内では私1名のみが認定を受けています。

活動領域は、主に「放射線診療」と「放射線事故・災害」の2つです。

【1】放射線診療

放射線診療では、放射線を用いた検査や治療を受ける患者さんやご家族が、安心して医療を受けられるよう支援しています。

近年は、放射性医薬品を用いた核医学治療が急速に発展し、従来は核医学治療といえばRI病棟でしたが、現在は外来や一般病棟の個室で実施できる治療も増えてきました。そのため、これまで核医学治療に携わる機会が少なかった部署においても、安全かつ円滑に治療を提供できる体制づくりが求められています。私は、多職種と連携しながら療養環境の整備やスタッフ支援を行い、患者さんが安心して治療を受けられる環境づくりに取り組んでいます。



【2】放射線事故・災害



当院は、国から高度被ばく医療支援センターおよび原子力災害医療・総合支援センター、福島県から原子力災害拠点病院の指定を受けており、放射線や放射性物質が関与する傷病者への医療も担っています。そして、これに対応できる医療者・関係者の育成も当院の重要な役割です。

そのため、院内外の医療従事者を対象とした研修や訓練を継続的に実施しており、私も講師の一人として教育・人材育成に携わっています。東京電力福島第一原子力発電所では廃炉作業が続いており、福島において放射線事故・災害への備えを継続していくことは、今後も重要な使命であると考えています。

放射線看護専門看護師は、患者さんやご家族への直接的な看護だけでなく、医療者への支援や教育、多職種との連携を通して、安全で安心な放射線診療の提供を支えています。放射線診療や放射線に関する看護についてお困りのことがございましたら、どうぞお気軽にお声がけください。

【発行元】公立大学法人福島県立医科大学附属病院 患者サポートセンター（きぼう棟1階）

【連絡先電話】（代）024-547-1111

Email: tourokui@fmu.ac.jp

（直通）外来受診申込:024-547-1074 入退院支援:024-547-1073 転院相談:024-547-1054

セカンドオピニオン:024-547-1026 連携登録医関連:024-547-1818